

第 91 回九州真菌懇話会・
第 6 回日本医真菌学会九州・中四国支部会
合同開催

日時 2025 年 5 月 18 日(日) 9:00～13:00

会場 ホテルニューオータニ佐賀中 2 階 鳳凰の間

佐賀市与賀町 1-2

TEL (0952) 23-1111

事務局 佐賀大学医学部内科学講座皮膚科
佐賀市鍋島 5 丁目 1 番 1 号
TEL (0952) 34-2368
FAX (0952) 34-2017

8:30	受付
9:00～	開催挨拶 日本医真菌学会九州・中四国支部会代表 泉川 公一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床感染症学分野 教授
9:03～10:15	セッション1 座長：串間尚子 田代将人 内科領域 演題1～6
10:15～10:20	休憩
10:20～11:44	セッション2 座長：凌 太郎 皮膚科領域 演題 7～13
11:44～11:50	閉会挨拶 九州真菌懇話会代表 松田 哲男 松田皮ふ科院長
12:00～13:00	ランチオンセミナー

開催挨拶 9:00～

日本医真菌学会九州・中四国支部会代表 泉川 公一

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野)

9:03-10:15 セッション1 内科領域(発表8分 質疑応答4分)

座長: 串間尚子(福岡大学筑紫病院)

田代将人(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

1. 「生前に診断することができた肺および胃 *Cunninghamella elegans* 症の1例」

平野優大¹⁾, 武田和明¹⁾, 平山達朗²⁾, 吉田将孝¹⁾, 井手昇太郎^{1,3)}, 岩永直樹¹⁾, 田代将人⁴⁾, 細萱直希⁵⁾, 高園貴弘¹⁾, 泉川公一⁴⁾, 柳原克紀⁶⁾, 迎 寛¹⁾

1) 長崎大学病院 呼吸器内科

2) 長崎大学薬学部 薬物治療学分野

3) 長崎大学病院 感染症医療人育成センター

4) 長崎大学病院 感染制御教育センター

5) 長崎大学病院 臨床研究センター

6) 長崎大学病院 検査部

子宮体癌に対して化学療法中の55歳女性。貧血の精査目的で撮影した胸腹部CTで reversed halo sign を伴う多発結節影を認めた。頻回の輸血歴およびMCFG投与中などから肺ムーコル症を疑い、L-AMBによる治療を開始した。気管支鏡検査および上部消化管内視鏡検査を行い、肺組織および胃粘膜から血管侵襲を伴うムーコル菌体を認め、遺伝子解析により *Cunninghamella elegans* と同定された。

2. 「アスペルギルスと非結核性抗酸菌の複合感染症と考えられた1例」

平井千晴¹⁾, 串間尚子¹⁾²⁾, 石井 寛¹⁾²⁾

1) 福岡大学 筑紫病院 呼吸器内科

2) 福岡大学 筑紫病院 感染制御部

症例は60代男性。健診で胸部異常陰影を指摘され受診し、胸部CTで右肺に広範な浸潤影および嚢胞内液体貯留を認めた。精査の結果、*M. heckeshornense* と肺アスペルギルス症の合併と診断した。後者に対してはイサブコナゾールを選択し、比較的安全に多剤併用療法を行うことができた。*M. heckeshornense* による非結核性抗酸菌症がまれである点も踏まえて報告する。

3. 「吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例」

鬼頭貴之¹⁾、乗富大地²⁾、夫津木遼²⁾、末原照大²⁾、原敦子²⁾、池田喬哉²⁾、近藤晃²⁾、田中藤信³⁾、石飛俊介⁴⁾、迎 寛⁵⁾

1) 長崎医療センター 教育センター

2) 長崎医療センター 呼吸器内科

2) 長崎医療センター 耳鼻咽喉科

3) 長崎医療センター 病理診断科

4) 長崎大学病院 呼吸器内科

74 歳男性。慢性咳嗽に対し吸入ステロイド薬を使用中、嗄声を主訴に受診し、喉頭に白色隆起性病変を認めた。生検および培養で *Cryptococcus neoformans* が同定され診断に至った。免疫不全の所見はなく、抗原・培養検査も陰性であった。吸入薬中止とフルコナゾール治療により改善を認めた。喉頭クリプトコックス症は比較的稀な病態であり、吸入ステロイド薬との関連が指摘されている。吸入ステロイド薬の慎重な使用が求められる。

4. 「VRCZ 治療を選択した *Apiotrichum mycotoxinivorans* 肺感染症の1例」

住吉誠、瀬戸口健介、北村瑛子、惠稜也、力武雄幹、高城一郎、宮崎泰可

宮崎大学医学部内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野

70 代男性。慢性下気道感染症および抗 *Trichosporon asahii* 抗体陽性のため紹介となった。気管支擦過・洗浄液より酵母型真菌が検出され、MALDI-TOF-MS、ITS 領域および 26S rDNA D1/D2 領域のシークエンシングにて *Apiotrichum mycotoxinivorans* と同定された。薬剤感受性結果をもとに VRCZ を開始した。本真菌は 2004 年に *T. mycotoxinivorans* と命名され 2015 年に *Apiotrichum* 属として再分類された。二形性真菌でありバイオフィーム高産生株が存在するため抗真菌薬の選択には注意を要する。

5. 「呼吸器真菌感染症における原因真菌同定のための網羅的解析法の構築」

真鍋大樹¹⁾、平賀紗喜¹⁾、先成このみ¹⁾、山崎啓²⁾、福田和正³⁾、矢寺和博¹⁾

1) 産業医科大学 医学部 呼吸器内科学

2) 産業医科大学 若松病院 呼吸器内科

3) 産業医科大学 医学部 微生物学

呼吸器真菌感染症は客観的な診断が困難で、直接的な原因真菌の同定がなされないまま経験的な抗真菌薬投与が行われることも多い。我々は、呼吸器疾患ガイドラインに記載される呼吸器真菌感染症の原因となる真菌を網羅する 18S ribosomal RNA 遺伝子を対象とした解析法を構築した。本手法を用いて、培養に依存しない遺伝子工学的手法を用いた起因菌の検出・同定の精度について検証を行い、臨床応用について検討した。

6. 「長崎大学病院の院内環境における糸状真菌調査および遺伝子学的解析」

久松弥生¹⁾、田代将人^{1,2)}、中野裕一郎¹⁾、浪江穂高¹⁾、白髭知之^{1,2)}、芦澤博貴³⁾、吉田将孝³⁾、武田和明³⁾、岩永直樹³⁾、柿内聡志²⁾、井手昇太郎⁴⁾、藤田あゆみ²⁾、高園貴弘^{1,3)}、田中健之²⁾、古本朗嗣⁴⁾、柳原克紀⁵⁾、迎 寛³⁾、泉川公一^{1,2)}

1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学

2) 長崎大学病院 感染制御教育センター

3) 長崎大学病院 呼吸器内科

4) 長崎大学病院 感染症医療人育成センター

5) 長崎大学病院 検査部

院内環境の糸状真菌の制御は重要な課題である。我々は、院内環境における糸状真菌の疫学および HEPA フィルターの効果を明らかにするため、長崎大学病院の院内環境において、191 検体（空気：95 検体、塵埃：96 検体）を採取し、糸状真菌の調査を行った。さらに本調査では、院内環境におけるアゾール耐性 *Aspergillus fumigatus* の存在も確認した。今後も薬剤耐性アスペルギルス継続的院内環境調査が望まれる。

10:15-10:20 休憩

10:20-11:44 セッション2 皮膚科領域

座長：凌 太郎

（凌皮膚科医院）

7. 熊本県の一診療所での爪真菌症の集計

野口博光¹⁾、大原彩加²⁾、林 大貴³⁾、柏田香代³⁾、久保正英¹⁾、福島 聡³⁾

¹⁾のぐち皮膚科、²⁾防衛医大、³⁾熊本大、

最近 9 年間の爪真菌症患者 477 例の原因菌を分離同定し耐性菌を検出した。テルビナフィン耐性率は主に足白癬の集計 2.3% (5/210) に対し今回 6.0% (16/264) だった。非白癬性爪真菌症も JSMM 疫学調査 1.4% (4/280) に対し 3.1% (15/477) で、原因菌は主にアスペルギルスとフサリウムだった。各種抗真菌剤に感受性は低く、エフィナコナゾール・ホスラブコナゾールで治療した。

8. 「爪フサリウム症にアムホテリシン B 軟膏治療を試みている 1 例」

牧野公治 (国立病院機構熊本医療センター 皮膚科)、瀨崎翔平 (同 薬剤部)、野口博光 (のぐち皮膚科)、矢口貴志 (千葉大学真菌医学研究センター 微生物資源分野)

53 歳女性。1 年来の全手爪変色・剥離・混濁、KOH 検査陰性で難治にて当科紹介受

診。KOH 再検陽性でF-RVCZ2 ヶ月内服したが無効、Crea 上昇し中止。爪培養で *Fusarium keratoplasticum* を検出し、AMPH-B のみ感受性確認された。AMPH-B 注射剤 50mg、蒸留水適量、マクロゴール 50g の混和軟膏を塗布しカットバンで ODT すると 1 月後から爪変形が改善してきたが、伸長は難渋。

9. ダーモスコピーが診断に有用であった頭部白癬の 1 例

林 大貴¹、柏田香代¹、野口博光²、久保正英²、牧野雄成¹、福島 聡¹

¹熊本大、²のぐち皮ふ科

74 歳女性、農業従事者。後頭部の脱毛と頬部から頸部に多発する瘙痒を伴う紅斑を主訴に来院した。脱毛斑は黒点を伴い、ダーモスコピーで corkscrew hair を認めた。直接鏡検陽性であり、サブロー培地 25°C14 日間の平板培養とスライド培養の結果をあわせて、*Microsporum canis* による頭部白癬、体部白癬と診断した。テルビナフィン 125 mg/日の 3 か月間の内服で培養検査が陰性になり治癒した。(199 字)

10. 大腿部に生じた *Fonsecaea pedrosoi* によるクロモブラストミコーシスの 1 例

演者 山口さやか、柳輝希、高橋健造

所属 琉球大学病院皮膚科

55 歳男性、アトピー性皮膚炎あり。1 年半前に大腿部に紅斑が出現し、ステロイド外用で改善せず当科を受診した。初診時、右大腿内側に 6 × 5 cm 大の浸潤を触れる紅斑局面あり。生検にて真皮に類上皮肉芽腫、多核巨細胞、炎症細胞浸潤があった。PAS、グロコット染色陽性の菌成分あり、臨床像からクロモブラストミコーシスと診断した。培養、分子生物学的検査より原因菌は *Fonsecaea pedrosoi* と同定した。

11. 非典型的な臨床を呈した皮膚カンジダ症の 2 例

竹中 基（長崎大学）、西本勝太郎（長崎掖済会病院）

症例 1：60 歳女性、ATL にて加療前精査中。胸部から腹部、腋窩、兎径部にわずかに鱗屑を付す炎症の強い紅斑を認めた。症例 2：75 歳女性、限局性強皮症にて PSL3 mg 内服中。背部に紅斑、丘疹からなる局面を認めた。いずれも、直接鏡検では体部白癬を疑ったが、培養にて、カンジダ (*Candida albicans*) が同定された。

12. 日光角化症に併発した顔面白癬の 1 例

○河村耕治、辻学、一木稔生、冬野洋子、今嶋真緒、武信肇、山村和彦、中原真希子、中原剛士（九州大）

80 代女性。3 年前に左尾毛部、鼻部の日光角化症に対しイミキモドクリームで加療歴あり。約 1 年前より顔面に痒みを伴う紅斑が出現し、ステロイド外用および PSL10mg/日内服するも改善せず、日光角化症の再発の疑いで紹介。前額部、鼻唇溝、鼻部に鱗屑を伴う紅斑が

あり、生検で異型を伴う表皮細胞の増殖と角層内に多数の菌糸性菌要素を認めた。日光角化症に加えて、顔面白癬と診断した。

13. 表在性皮膚真菌症を併発した汗孔角化症

○山田七子 足立孝司 池田彩乃 木村良子 吉田雄一（鳥取大学皮膚科）

73 歳男性。左上肢と両下肢の皮疹に副腎皮質ステロイド外用や内服治療が行われたが軽快せず紹介された。左上肢、両下肢に 1 cm までの紅褐色の円形から楕円形の紅斑が多発・融合していた。皮疹の直接鏡検で真菌要素は陰性。大腿部から生検し表皮の軽度肥厚、部分的錯角化を伴う過角化、真皮浅層にリンパ球主体の炎症細胞浸潤と組織学的色素失調があり、Grocott 染色で毛包漏斗部と角層の一部に真菌要素が多数染色された。

閉会挨拶 11:44～

九州真菌懇話会代表 松田哲男
（松田ひふ科）

ランチョンセミナー（12:00～13:00）

座長：佐賀大学医学部内科学講座皮膚科教授

杉田和成

『掻痒管理を基盤としたアトピー性皮膚炎治療

ーサイバインコの役割と展望ー』

藤田医科大学医学部皮膚科学教授

杉浦一充 先生

共催：ファイザー株式会社

企業展示（8:30～16:45）

アムジェン株式会社

展示内容 オテズラ錠 掌蹠膿疱症

ご案内

1. 参加費は 2,000 円です。

(日本皮膚科学会佐賀地方会の参加費は別途かかります。)

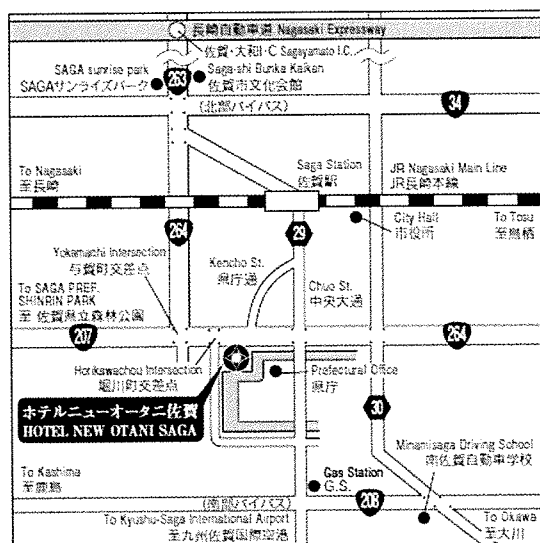
2. 口演時間は発表 8 分、質疑 4 分です。

3. 会場には Windows のパソコンおよび液晶プロジェクターを用意しております。データは USB メモリに保存して、PC 受付に発表の 30 分前までにお持ちください。

発表の際、Power Point の発表者ツールは利用できませんので、ご了承の程、お願いします。

4. 会場では Macintosh は本体持ち込みのみ対応します。メディアでの持ち込みは出来ません。必ず PC 本体とコネクター、アダプターをお持ちください。

5. 出来るだけ公共交通機関でお越し下さい。駐車券の用意はありません。



佐賀市営バス 佐賀駅バスセンター4 番のりば ③、④、⑪、⑫ 番バス乗車 5~15 分間隔

辻の堂下車 所要時間約 8 分

タクシー 約 5~8 分